宮本憲一氏収集資料による
新たなアーカイブ手法の考案

金沢大学 人間社会研究域附属 地域政策研究センター

経済学類教授　碇山　洋、人間社会環境研究科客員研究員　西田　祥隆

要旨

アーカイブの手法は主に公文書管理のために開発されてきたが、研究者が長年にわたり収集した、多分野にわたる膨大な量の一次資料のアーカイブ手法はいまだ確立していない。本研究では、宮本憲一氏（大阪市立大学名誉教授）が戦後初期から収集された資料を素材に、「可塑型・初期化可能型アーカイブ」の手法を考案した。

研究の背景

宮本憲一氏が金沢大学に寄贈された資料のうち図書についてはすでに公開されているが、膨大な収集資料は日本十進分類法では対応できず、長らく、その整理・データベース化の手法の開発が課題となっていた。公文書管理を中心に開発されてきたこれまでのアーカイブの手法でも、対応できないことも明らかになった。新しいアーカイブの手法を考案する必要があった。

研究方法

①文献研究　アーカイブに関する主要文献に関する研究。

②事例調査　国文学研究資料館、公害地域再生センターなどにおける一次資料のアーカイブの実情と抱える問題に関する視察と聞き取り。

③新手法の考案と試行　①②を踏まえ、仮設的に「可塑型・初期化可能型アーカイブ」を考案し、一部資料をつかって試行、検証。

研究の結果（１）

資料のすべてに（仮）表題、記号・番号、位置情報を付し、分類・整序は行わずアーカイブする手法、「可塑型・初期化可能型アーカイブ」を考案。

資料利用が進み表題等の変更が必要になる都度、ＤＢに修正を加え、資料の物理的な移動を撮影記録する。これで、資料はいつでも前の段階、場合によっては最初の段階に戻すことができ、新たに開発されるアーカイブ手法にも対応できるようになる。

研究の結果（２）

このアーカイブ法により――

①資料整理・分類の時間的・経済的負担を劇的に軽減することができる。

②一方、資料利用者は、内容的に関連しながら整序されていない資料を、データベースが示す位置情報をもとに、探索しなければならない。

③しかし、短期間の作業で、貴重な資料が死蔵されることなく、利用に供されることができる。

まとめ

このアーカイブ手法には、負担を資料利用者に転嫁するものとの批判があり得る。しかし最も避けるべきは、貴重な資料が死蔵されることである。本手法は、利用者に少しの負担を求めることで利用を可能にする方がよいと割り切るものである。

〒920-1192　石川県金沢市角間町金沢大学人間社会3号館1階1109号室
金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センター　TEL 076-264-5438　FAX 076-234-4100
E-mail　cures@adm.kanazawa-u.ac.jp　URL　http://www.kanazawa-chiikicenter.com/